

# ふるさと探訪

県重要文化財（建造物）

## 蒲生秀行廟（一棟）

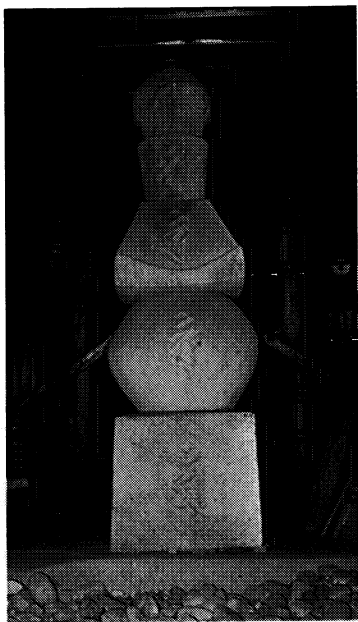
天正十八年（一五九〇）から慶長三年（一五九八）までと、同六年（一六〇一）から寛永四年（一六二七）までの二回、前後約三十五年間会津の領主であった蒲生秀行の廟屋である。

方三間（四・六一メートル四方）の廟屋はすべて禅宗様の建築であり、渦文の木鼻や三ツ花懸魚に桃山ないし江戸初期の特色をもつので、建立の時期は秀行卒年の慶長十七年（一六二二）からそれほど経ていない。廟内には石造五輪塔が安置されている。

所在地 会津若松市門田町大字年貢町

字年貢町六十番地

所有者 弘真院

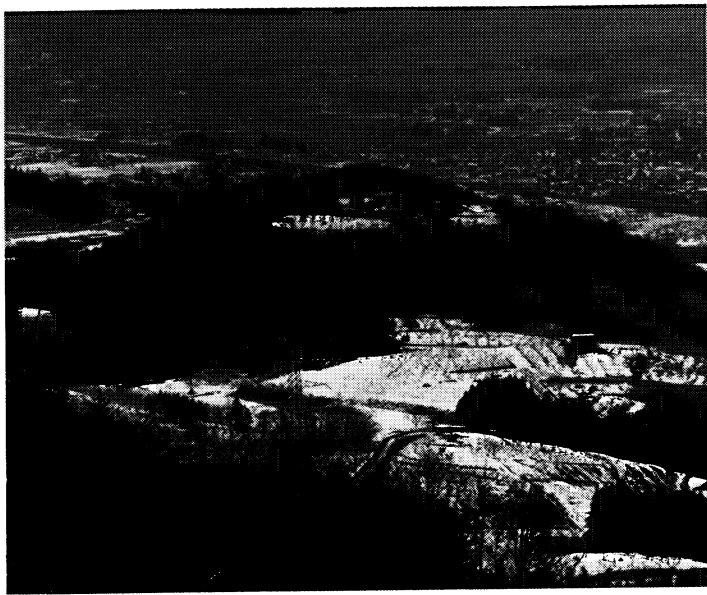


▲廟内に安置されている石造五輪塔



懸魚や木鼻に特色をもつ廟屋

## ▼高館山とよばれる丘陵上にある桑折西山城跡



所在地 伊達郡桑折町大字万正寺地内 所有者 桑折町ほか82名

県文化財指定（史跡）

## 桑折西山城跡

桑折西山城跡は東西約八百八十メートル、南北約五百七十メートル、標高百九十三メートルの高館山とよばれる丘陵上にある連郭式の遺構である。

曲輪は、本丸・中館・西館の三つから成り、中館と西館の間には長さ約百五十メートル、幅約九メートル、深さ約四メートルの空堀が走り、中館と西館には高さ一・七メートルの石塁が続いている。陸奥国守護（奥州探題）伊達植宗の居城として知られ、十六世紀前期という築廃城年代の明確なこと、および保存の良い点など、その史跡としての価値は極めて高い。